



速解力検定開催せまる キミの読み解く力をチェックしよう!



みなさんは普段の学習や読書で、時間内に解く・読むことをどのくらい意識していますか？
はこの問題を20分で解く！1時間以内に宿題をすませる！など、時間制限という目標を設けることで刺激・活性され、「速読・速解力」が必然的に身につけてきます。これは実は、学習スピードや基礎学力にも深く関係しています。
みなさんが日々のトレーニングで鍛えた「速読・速解力」を発揮する速解力検定が、**10月15日（11月5日）木まで**開催されます。年に2回の機会ですので、受け忘れがないように先生と受験日を確認しましょう。

目標を決めて受験に備えよう

受験する前に、学習履歴や記録用紙などを参考に今回の目標を立てましょう。

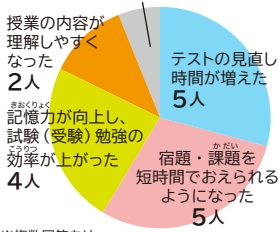
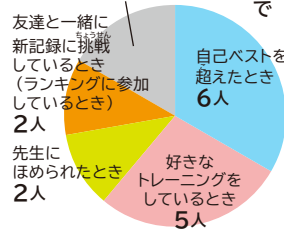
また10月は「読む速さ」と「解く速さ」のバランスを確認できる成果チェック②も開催しています。昇級・認定を目指す人はもちろん、今回の受験が初めての人も、まずは成果チェック②で文章量や問題の取り組み方などをぜひ確認してみてください。

目標を決めよう

- ① 800文字/分以上
難関大学入試に対応できる速さ
- ② 700文字/分以上
難関高校入試に対応できる速さ
- ④ 600文字/分以上
有名私立中学に対応できる速さ
- ※必ずしもこの数字をクリア!
- ⑦ 400文字/分以上
高校生の平均読解速度
- ⑧ 300文字/分以上
小5~中学生の平均読解速度
- ⑨ 200文字/分以上
小1~小4の平均読解速度

各学年の平均

2018年第1回速解力検定 成績優秀者12人に聞きました!



読書量

- ◎ もともと月10冊以下だった受講生
速読トレーニングの前後で、**平均1.9冊増**
- ◎ 月10冊以上読書している受講生
12人中3人から**5人**に

読書の秋を楽しもう

「読書の秋」といわれませんが、その理由はなんなのでしょうか。暑さが和らいで、集中しやすい気候だから...というだけでなく、実はもっと深い理由があったのです。

「読書の秋」の由来は、唐(中国)の韓愈が作った詩からきているそうです。詩の内容は「秋の夜は涼しさが心地よく、灯りで読書するのにちょうどよい」というもので、ここから「秋は読書」というイメージが生まれたと言われています。

日本で「読書の秋」という言葉が使われたのは昭和になってからで、それ以前にはほとんど使われていません。戦後すぐに、現在まで続く「読書週間」が定められ、「読書の秋」という言葉が定着したようです。

目のつかれを取る方法

夢中になって本を読んでいたら、だんだん目がつかれてきた...という経験、ありませんか？ そんなときは、目のつかれに効くツボを押してみたいかがでしょうか。ツボを押すときは優しく押し、目を傷つけないように気をつけましょう。

リラックス~

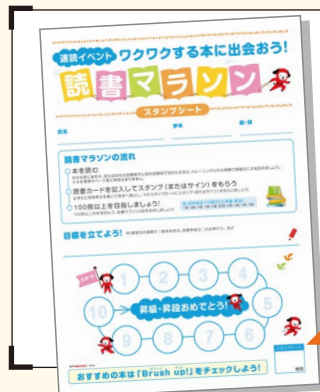


読書マラソンに挑戦しよう

普段の速読とトレーニングで身に付けた速読力を生かして、今年の秋は「多読」にチャレンジしてみたいかがでしょうか？
多読とは、その名の通り、とにかくたくさん本を読むことです。

たくさん本を読んで、お気に入りの一冊を見つけてみましょう。読書マラソンスタンプリットなども、ぜひ活用してみてください。

※読書マラソンシートはFAQ No.507よりダウンロードいただけます。



10月のイベントは...

- × 成果チェック②
- × 速解力検定(15日)
- × ピックアップトレーニング

全学年
あみだくじ

昨年の1位
13841点

